

# ひまわり2組自立活動学習指導案

場所 ひまわり2組教室  
授業者 御田村 さつき

## 1 単元名 「言葉のキャッチボールをしよう」

## 2 単元について

### 3 人間関係の形成

- (1) 他者との関わり方の基礎に関すること
- (2) 他者の意図や感情の理解に関すること
- (4) 集団への参加の基礎に関すること

### 6 コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力にかんすること
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること
- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

ひまわり2組の「自立活動」は、通常、1年生3人の男子と3・4年生男子2人の5人でやっている。1年生はとても元気があり、3・4年生の子がすることを真似するなどとても慕っている。3・4年生の子も、優しく教えたり、一緒になって楽しく遊んだりしている場面があった。ただ、一緒に楽しく活動できるときもあれば、物や順番の取り合いでけんかになり、なかなか仲直りできないことも多々あった。

「みんなと仲よくゲームをしよう。」の単元では、ゲームの内容を自分たちで決め、必要なルールを話し合って活動してきた。自分のやりたいことが中心になるが、考えが決まらないときは、「ゆずる」、「じゃんけん」、という手段を使って、物事を決定することができるようになってきている。しかし、友だちと関わりをもつ中で、相手の意思を確認しないまま自分の考えを一方的に伝えてしまったり、相手の考えに対して意思表示をしなかったりすることがある。また、自分の考えを言わないまま、相手の考えに合わせるということが少なくない。

単元を通して、さらに楽しく遊ぶためのルールを話し合う中で、「話し合うときに大切なこと」の定着を図るとともに、相手の考えに対して自分の意思を表示したり、相手の意思を確認した上で、自分の考えを伝えたりすることができるようにする。また、友だちと話し合い、楽しく活動することができたという成功体験を積み重ねることで、人と関わる楽しさや友だちと協力して成し遂げる達成感を味わうことができるようにしたい。

本時では、自分の考えを相手に話し、うなずきながら聞いたり、「いいね」「なるほど」などと同意の意思表示したりすることができるようにする。次に、実際にゲームをする中で、ルールなどを話し合って決める活動を繰り返す。話し合いに必要な言葉を視覚化し、見通しをもち主体的に取り組むことができるようにする。話し合う内容は、みんなができるルールから、楽しくするためのルールへと発展させていくことで、話し合いのスキルを高めたり、物事を決めることができたという達成感を味わったりすることができるようにする。

このような学習を通して、子どもたちが人と関わる楽しさを味わい、周囲の人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲をもつことができると考える。また、自分の意見が認められたという喜びを味わうことで自己肯定感を高め、生活を更に豊かにしていくことにつながると考える。

## 3 研究にかかわる本時の意図

### 研究内容1 教材化の在り方と単元構成の工夫

#### ①意欲が持続する教材の工夫

全員、遊ぶことは大好きである。そこで、はじめにみんなが楽しくゲームをすることができるように「話し合うときに大切なこと」を確認させる。また、自分の考えを伝えるとき、相手の考えを聞くとき、考えがまとまらないときに分けて、それぞれどのように伝えようかを確かめ合い、その後、実際にゲーム活動をする中で、言葉のやりとりが身に付いていくようにさせたい。さまざまなゲーム活動は、子どもたちの心をリラックスさせ、コミュニケーションへの意欲をもつことができると考える。

さらに、ひまわりの仲間から、通常学級の仲間へと広げ、いろいろな人と関わる中でも、話したり聞いたりする活動を行うことで、コミュニケーションの力を高めていきたいと考えている。

### 研究内容2 学習活動の工夫

#### ①見通しがもてる活動の工夫

単元の活動の流れを常時掲示することで、活動への見通しをもち、主体的に活動に取り組むことができるようにする。また、「話し合うときに大切なこと」も意識できるように掲示する。

一人一人が「できたかなカード」をもち、毎時間シールを貼ることで、自分の様子を振り返り、頑張ったという気持ちを高め、心のリラックスにつなげる。

### 研究内容3 評価と指導・援助

#### ①一人一人の状況に応じた指導・援助の工夫

コミュニケーションが苦手な児童に対しては、状況に応じて、具体的な言葉を示したり、自分から気付けるように声かけをしたりする。困ったときは、仲間に相談し、教師にそのことを伝え問題解決ができるようにする。

ゲームで自分の思うようにいかないときに、すぐゲームをやめてしまったり、人のせいにしてしまったりする児童に対しては、心を落ち着かせると同時に、気持ちを聞いてどうするとよいかをアドバイスする。



#### ②環境設定の工夫

本時の活動の流れを掲示し、児童が進んで行動できるようにする。活動する場所で移動黒板を使用し、児童がいつでもめあてや活動を確認できるようにする。



